

厚生労働科学研究費補助金(健やか次世代育成総合研究事業)  
小児死亡事例に関する登録・検証システムの確立に向けた実現可能性に関する研究  
(主任研究者 溝口史剛)

Child Death Review を国民に周知する方策に関する研究  
「医療機関に Child Death Review を周知するための方法に関する研究」

分担研究者	山中龍宏	(緑園こどもクリニック)
研究協力者	溝口史剛	前橋赤十字病院小児科
	沼口 敦	名古屋大学医学部附属病院 救急科
	尾角光美	一般社団法人 リヴオン
	内山健太郎	賛育会病院小児科

#### 研究要旨

CDR という用語は、近年小児医療者の中で急速に認識されるようになってきた実感はあるものの、実際にそれが社会実装される状況にあるとは現状は言い難い。現時点で CDR を社会実装するためには、「医療機関」が「研究」として「後方視的」に行う以外には、ほとんど方法論がない。それゆえに本研究班の実施する、日本小児科学会子どもの死亡登録検証委員会との合同研究で、各地の医療者が取り組みを開始することには、研究という側面を超えた社会実践活動として大きな意味がある。

しかし現実的に、CDR の意義を理解し実践行動に移ることのハードルは決して低くはない。卒前・卒後を通じ、小児死亡時の対応を学ぶ場は座学でも、オンザジョブでも少ない。そのため、本研究班の分担研究者・研究協力者の実施した CDR の総論と、グリーフサポートについての講演を録取りし、HP で公開し広く閲覧可能とした。また、合同研究を CDR に結びつける流れにつき、手に取り活用されやすいように漫画作成を行い、米国で作成された模擬実施を用いた CDR 会合の動画の翻訳作業を行った。

これらのコンテンツが利用され医療者の理解を進める一助となることが期待されるが、CDR の社会実装の動きが広がり、実運用が見えてきた際には、一般市民向けの啓発コンテンツの作成も今後は必要と思われる。

#### A. 研究目的

CDR という用語は、近年小児医療者の中で急速に認識されるようになってきた実感はあるものの、実際にそれが社会実装される状況にあるとは現状は言い難い。現時点で CDR を社会実装するためには、「医療機関」が「研究」と

して「後方視的」に行う以外には、ほとんど方法論がない。それゆえに本研究班の実施する、日本小児科学会子どもの死亡登録検証委員会との合同研究で、各地の医療者が取り組みを開始することには、研究という側面を超えた社会実践活動として大きな意味がある。

本研究をより広く実施していただく流れを促進するため、各種コンテンツ制作を行った。

## B. 研究方法

CDR の概要についての理解を深めるため、群馬大学で2018年1月10日に行った、分担研究者沼口敦の講演を録取し、個人を把握しうる内容を削除し、動画を作成した。

また医療機関で提供すべきグリーフサポートについての理愛を深めるため、群馬県高崎総合医療センターで2018年2月12日に行った研究協力者尾角光美の講演を録取し、動画を作成した。

また、合同研究で参加医療者に何が求められるかを、簡便に理解するためのツールとして、手に取り活用されやすいように漫画作成を行った。また合同研究から、多機関連携でのCDRの実践につなげるイメージをつかんでもらうために、米国で作成された模擬事例を用いたCDR会合の動画の翻訳作業を行った。

## C. 研究結果,

作成したこれらのコンテンツはすべて、研究班のHP(<https://www.child-death-review.jp/>)で公開した。

本報告書末尾に、作成した漫画を添付した。作成した動画コンテンツに関してはHPを参照されたい。

## D. 考察、およびE. 結論

現実的に、CDRの意義を理解し実践行動に移ることのハードルは決して低くはない。卒前・卒後を通じ、小児死亡時の対応を学ぶ場は座学でも、オンザジョブでも少ない。

これらのコンテンツが利用され医療者の理解を進める一助となることが期待されるが、CDRの社会実装の動きが広がり、実運用が見えてきた際には、一般市民向けの啓発コンテンツの作成も今後は必要と思われる。

## F. 健康危険情報

該当なし

## G. 研究発表

論文発表

なし

書籍発刊

なし

学会発表

なし

シンポジウム

なし